



広島視察研修に行つて
京小六年 藤村 梨乃

私は、以前から広島に行つて戦争の色々な事を学びたかったので、今回広島視察研修を希望しました。飛行機に乗るのが初めてだったので、すごく楽しみでした。

一日目は、広島に着いてから全校で作った千羽鶴を原爆の子の像にささげました。他にも色々な鶴がキレイに飾つてあり、平和を祈っている人が沢山いることがわかりました。二日目は、祈念式典に参加しました。すごく沢山の人がいてとても暑かったです。一九四五年の今日、原爆が落とされたんだと思うとすごく恐ろしくなりました。いよいよ式典が始まり、原爆が落とされた8時15分に、黙祷をしました。広島市長の平和宣言のお話の中で、当時13才の少年の体験がありました。「警防団の人と一緒にトラックで遺体の収容作業に出て、足首を持つように言われ、つかむがズルツと皮がむけて握れない。覚悟を決めて指先に力を入れると滴が垂れた。臭い。骨が握れた。いちにのさんでトラックに積んだ。」という話をして



ました。

原爆が投下され、その日だけで八万人の人が亡くなったそうです。温度は四千度にまでなり、街は一瞬にして焼きつくされました。たくさんの方が全身に大やけどを負い、水を求めてぞろぞろと歩いていました。爆風を後ろから受けた人は、目玉が飛び出てしまいました。

実際に被爆した方は、このようなことを話してくださいました。この他にも、もっとたくさんのお話を聴きました。信じられないほどおそろしい話でした。被爆者の

くれました。すごく生々しく残

くだと思えました。式典が終わる移動して被爆者の体験談を聞きました。まず最初に「なぜ広島と長崎に原爆が落とされたか知ってるかい？」と聞かれました。その時は侵略戦争で韓国や、よその国に日本は土地が少ないので攻められていたそうです。土地が狭いだけで何も悪い事をしていないのになぜ攻められなくてはならないの不思議でした。けれど外国は戦争をやめようとしたのに、日本は、あんなに攻められていたのになんか思いつきません。そのためアメリカが核兵器の実験に成功し、日本がやめようとしなかったので、試みに落としてみようと言つて広島と長崎に落とされたそうです。試しにという簡単な考えで25万人の命が亡くなるなんて悲しいことだと思いました。話をしてくれた人のお母さんは、原爆が落とされた12km先に住んでいて、急にならからキラキラしたすごくキレイな物が落ちて来たかと思うと、一瞬にして吹き飛ばされたと話してくれました。また、背後で原爆が落とされると気圧の関係で目が飛び出るとい

話は滅多に聴く機会がないので、聴くことができて良かったです。

そして、この話をもっとたくさんの人に聴いてほしいと思いました。広島平和記念資料館には、被爆したものがたくさん展示してありました。原爆投下前と投下後の広島を比べてみると、投下後は建物がほとんどなく、街中が焼かれているのがわかりました。そして原子爆弾の威力を知り、おそろしくなりました。

現在の広島は、原爆が落とされたとは思えないほどきれいな街ですが、資料館の展示物を見ると本当に酷い状態だったので驚きました。

今まで写真でしか見たことがなかったものを実際に見たり、話を聴いたりしてとても良い経験ができました。そして、原爆のおそろしさを改めて実感しました。もう二度と、戦争はしてほしくないです。

広島に行つて、たくさんの方々の貴重な体験ができました。そして、もっとたくさんの方に戦争や原爆のおそろしさを知ってほしいと思います。広島に行くことができます。本当に良かったです。



話を聞いて、もう聞くのがつらくなりました。戦後、口から血の固まりを吐いたりして、そのお母さんは回復し、家事を出来るようになってきたそうです。その後、乳がんになりがんと取ったのにもかかわらず、肺がん、次にリンパ腺頭にと繰り返しがんができる多発がんになって亡くなったそうです。67年たった今も苦しんでいる人がいると思うと放射能は、とても恐ろしい物だと思いました。

広島で学んだこと



京中三年 吉川 睦美

私は小学校で原爆について調べたことがあります。小学生の頃は内容があまりわかりませんでした。が、中学生になってから教科書で原爆に関わることを勉強し内容がわかるようになりました。そしてもっと詳しく知りたいと思ったので、広島視察研修に応募しました。私たちが広島に到着した5日の日に平和記念公園に行くと、デモが行われていました。歌や大声を出して核兵器反対を訴えていました。私は迫力にびっくりしました。デモに参加しているひとの気持ちはずっと伝わってきました。言っていることは正しいことだと思つたし、とてもいい活動だと思いました。

次に国立広島原爆死没者追悼碑と祈念館に行きました。遺影コーナーでは小さい男の子が兵隊さんの服を着てうれしそうに笑っていたり、おばあちゃんがかわいらしく笑っている

今、福島も、放射能のえいきょうがいつまで続くのかと思うと、とても恐ろしく不安です。そして二度と戦争は起きてほしくありません。



広島に行つて
京中三年 吉川 美鈴

わたしは広島視察研修を通して、原爆や戦争についてたくさん知ることが出来るようになりました。初めに祈念式典に参加し、原爆ドームも見えました。原爆ドームは写真で見ると大きく感じました。近くで見ると、そこだけはまだ当時のままのようでした。

実際に被爆した方の体験談には衝撃を受けました。その方が小さい頃は食べるものがなく、いつもおなかのすいていて、生活するのが精一杯だったそうです。そのような状況は今では考えられないし、食べ物や粗末にすることは戦争を体験した人に失礼なことだと思

写真があつてそんな人々が亡くなつてしまつたと思うと、すごく悲しい気持ちになりました。

八月六日、平和祈念式に参加しました。あいさつを聴いていると、「核兵器をなくす」という言葉が何度も出てきました。「被爆者」という言葉は外国人も使つていました。それらが各国の核兵器に対する思いが伝わってきました。

その後、広島平和記念資料館では遺品や写真などを見ました。すごく怖くなって、目をそむけてしまつた写真がたくさんありました。遭品もポロポロになっていて、原爆の被害が私の想像より考えられないほどひどくて、おどろいてばかりでした。

被爆者の講話では怖い話しか

